

## 作者の横顔

生きる力を育てるために  
我慢する体験を



▲このページの作者である古田哲也さん。現在は学校教育課就学指導係兼生徒指導係長として勤務しています。

最近是不景気ですが、昔に比べてモノが豊かになり、個人が大切にされる時代になりました。

このような社会の中で、子どもたちは家庭や学校、地域の中で自由気ままに振る舞い、我慢するという体験が少なくなっています。

子どもたちに「生きる力」を育てるためには、「我慢する体験」をより多く積ませることが必要であると思います。



です。  
自分の要求がかなえられないとき、あるいは自分の思い通りにことが運ばないとき、『がまん』のできな子どもはどんな行動をとるのでしょうか。  
幼いころであれば、要求が聞き入れられるまで泣き叫んだり、すねて口をきかなくなったりするでしょう。中学生くらいになれば、暴言を吐いたり暴力をふるったりすることもあるかもしれません。

衝動的に刃物を振り回し、傷害事件を起こすなど、『キレる』子どもが社会問題になっていきますが、『がまん』という言葉がキーワードになっていると思います。  
かわいい子どもの要求に、応えてやりたいというのは親心です。しかし、健全な心を持つ子どもを育てるためには、『がまん』させるべきところを心を鬼にしても、『がまん』させなければなりません。  
ピーマンが嫌いであれば、今日は

一切れ、次にピーマンが出たときは二切れを食べさせる。  
ゲームソフトが欲しいのであればお正月のお年玉で買うようにするなど、子どもの発達段階に応じて、徐々に我慢の度合いを強めていくことが大切です。  
大人に必要なことは、子どもの要求に安易に応えることを『がまん』することです。